

CPIPの症状と医師に相談するタイミング

CPIP では多彩な症状が起きることが知られています。

- 1) 鼠径部の痛み
 - 動作時の痛み（腹筋に力を入れたとき、長時間の歩行・座位、あぐらをかいたとき、膝を挙げたとき、など）
 - 安静時の痛み（特に夜間就寝時）
※はっきりとした痛みではなく、違和感を訴える場合もあります
※痛みは持続的な場合や、突然強くなる場合もあります
- 2) 手術した鼠径部と同側の足（多くは太もも）の痛み・しびれ感
- 3) 手術した鼠径部と同側の臀部の痛み・しびれ感
- 4) 睾丸痛
 - 椅子に座ったときや、お風呂でシャワーが当たったときに起こることがあります
- 5) 性交時痛
 - 勃起痛、射精時痛などを起こすことがあります
- 6) 下腹部痛
 - 排便の前後に痛みを感じる場合があります
- 7) 頻尿・排尿障害
 - 夜間の頻尿を訴える場合もあります
- 8) その他（痛みが付随する症状）
 - うつ状態
 - 歩行障害
 - 不眠症 など

我慢をせず、一人で抱え込まないで

「痛み」は第三者がみて分かるものではなく、血液検査やレントゲンで評価できるものでもないため、症状に関して周りから理解されず、悩まれる方もたくさんおられます。

そのため、鼠径部ヘルニア術後3ヶ月を過ぎて上記症状がみられる場合は、我慢をせず、一人で抱え込まないで手術を受けた病院で主治医に相談してください。

✓ Point: CPIP の症状と医師に相談するタイミング

- 多くは鼠径部・同側の足（太もも）の痛みだが、それ以外にも多彩な症状を来すことがある
- 上記「CPIP の症状」が術後3ヶ月以上たってもよくなり、もしくは新たにでてきた場合は主治医に相談しましょう

鼠径部ヘルニア術後3ヶ月以上たっても痛みが治まらない場合があり、痛みにより日常生活に支障を来すことがあります。

これは、術後合併症の一つ「鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛；CPIP」
として知られているものです。

こちらも合わせてご覧ください。

CPIPに関するWebsite

鼠径部ヘルニア術後に痛みがとれずに困っている患者さま、そしてご家族や周りの方々に向けた情報を掲載しています。



Zero Complications +



<https://www.medtronic.com/jp-ja/your-health/conditions/cpip-inguinal-hernia-repair.html>

- *1 Lundström, K.-J., et al. Patient-reported rates of chronic pain and recurrence after groin hernia repair. British Journal of Surgery, 2018, 105:106-112.
- *2 Niebuhr, H., et al. What are the influencing factors for chronic pain following TAPP inguinal hernia repair: an analysis of 20,004 patients from the Herniated Registry. Surgical Endoscopy, 2018, 32:1971-1983.

本内容は、医師の診療に代わるものではありません。
症状や治療に関しては、必ず主治医の診断を受けてください。

Medtronic

コヴィディエンジャパン株式会社
Tel: 0120-998-971
[medtronic.co.jp](https://www.medtronic.co.jp)

© 2022 Medtronic.
Medtronic及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。

mt-si-ot-cpip(01)
2202.pdf.es.SI-A539

Medtronic

鼠径部ヘルニア術後に痛みがとれずに困っていませんか

- 鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛 (CPIP) について -

監修:

成田 匡大 先生

独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 外科



鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛 (Chronic Postoperative Inguinal Pain; CPIP)とは？

一般的に、鼠径部ヘルニア術後の痛みは手術後1～2週間をピークに徐々に改善していきます。中には1～2週間を過ぎても痛みが続く場合もありますが、ほとんどが鎮痛薬の内服でコントロールでき、最終的には時間の経過とともに痛みは消失していきます。

ところが、**鼠径部ヘルニア手術の術後3ヶ月たっても痛みが治まらない場合があり、痛みにより日常生活に支障を来す**ことがあります。このような状態を「**鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛 (CPIP)**」と診断します。

✓ Point: 鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛 (CPIP)

- 鼠径部ヘルニア術後3ヶ月以上経過しても軽快しない、もしくはそれ以降に新たに出現した日常生活に支障を来す痛み

CPIPの頻度

CPIPは2000年頃から欧米を中心に報告されてきた疾患であり、以降たくさんの研究報告がなされています。

2018年にスウェーデンから発表された報告では、鼠径部ヘルニア手術を受けた2万2,917人の患者さんを対象にアンケート調査を行った結果、**前方切開法術後の15%、腹腔鏡下手術後の18%**の患者さんで、術後1年たっても日常生活に支障を来す痛みがありました*1。

また、同じく2018年に報告されたドイツ・オーストリア・スイスの577施設による研究では、腹腔鏡下鼠径部ヘルニア手術を施行した2万4人の患者さんのうち、**9.5%にあたる約1,900人**に手術1年後も運動時に疼痛がありました。また、治療が必要となった患者さんは**約520人**と、全体の**2.6%**を占めていました*2。一度CPIPに陥ると、患者さんは痛みのため消耗し、日常生活が立ちゆかなくなります。このような背景から、海外でCPIPは鼠径部ヘルニア手術の最も忌むべき術後合併症として、医療者はもちろんのこと、手術を受ける患者さんにも広く認識されている疾患です。

一方、日本では海外と比べて研究報告自体が少なく、正確な発症頻度は不明です。そのため、本邦では医療者にとってもまだまだなじみの薄い疾患です。

✓ Point: 海外におけるCPIPの頻度

- 前方切開法術後の15%
- 腹腔鏡下手術後の9.5%～18%
- 日本におけるCPIPの発症頻度は2021年現在では不明

* 前方切開法: 鼠径部の皮膚を切開して修復する方法

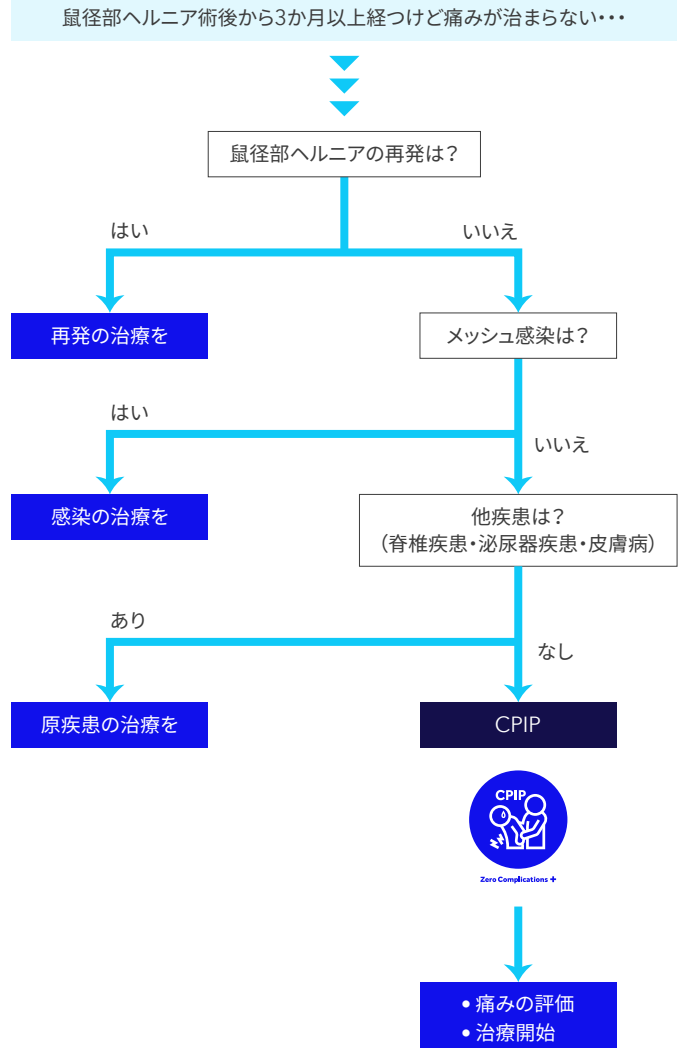
* 腹腔鏡下: ポートと呼ばれる筒を用いてカメラや手術器具を体内に入れて行う方法

CPIPの診断と治療

海外を中心にCPIPという疾患は次第に理解されてきましたが、確立された治療方法はありません。国内外の鼠径部ヘルニア診療ガイドラインでも、その具体的な治療法は記載されていません。そのため、CPIPの治療は困難を極めます。以下に京都医療センター外科におけるCPIPの診断までのプロセス、治療法とその考え方について説明します。

なお、ご紹介している症状や診断、治療法などはあくまで一例であり、患者さん個人によってさまざまです。気になる場合はまず主治医に相談しましょう。

CPIPの診断



CPIPの診断と治療

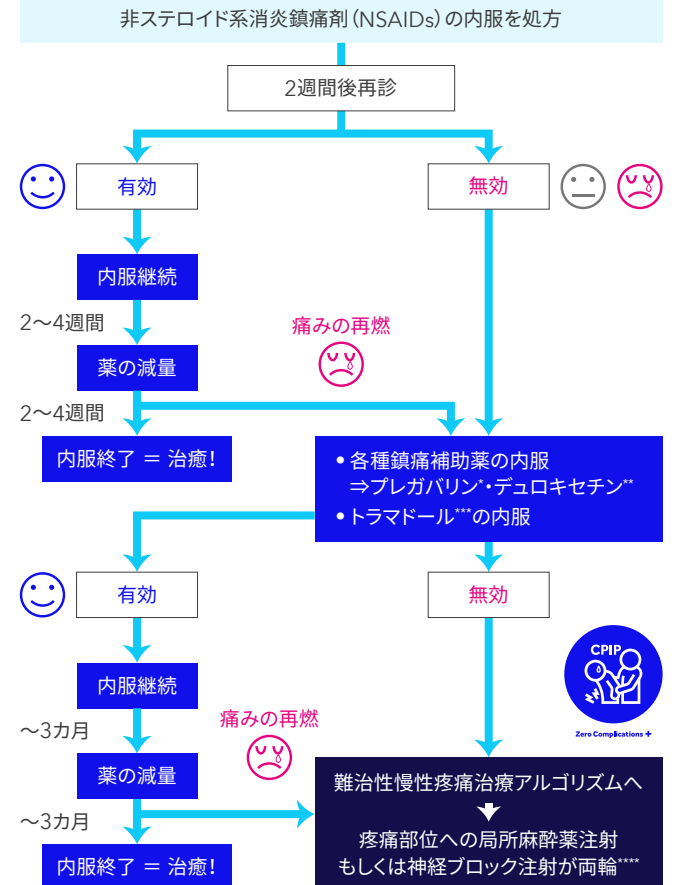
これらの治療により痛みが消失し、CPIPが治療した患者さんも多数おられます。残念ながらこれらの治療によっても痛みが治まらない場合は、手術による治療が必要になる場合があります。

手術は一定のリスクを伴うものであり、また、100%痛みが消えるという保証もありません。時には重篤な合併症を起こす場合もあります。また、手術を行うことによりデメリット（ヘルニアが再発するなど）が生じることもあります。そのため、安易に手術を実施することはありません。

“何が原因でこのような痛みが起こっているのか”

“どうすればこの痛みが取れるのか”を十分に検討し、結論を出すことにより手術の可否が決定します。そのうえで手術の方法と期待される効果および起こりうるデメリットについて説明します。手術を受ける患者さんとご家族がそれらの説明に対して納得できた場合にのみ、手術による治療が行われます。

CPIPの治療



* 内服中に車の運転は出来ません

** トラマドールとの併用で副作用が出やすくなります

*** 長期投与は推奨されていません

**** 手術による治療が行われることもあります